

## キウリのクロホシ病防除について

稲 葉 祐 二  
(富山県立山地区農業改良普及所)

この病害は、富山市近郊の胡瓜栽培農家の間で通称胡瓜のヤニといわれ相当以前から発生していたようであるが、昭和25年に北陸農試の小野技官によつてクロホシ病と確認された。本病は例年主として果実に発生し多発年次の発病率は40~50%にも達し、ボルドー液撒布効果も余り期待できず、胡瓜栽培農家に与える影響は極めて大きい、そこで32年にマンネブダイセーン、ダイセーン、6斗式石灰半量ボルドー、銅水銀水和剤、マンネブダイセーン隔回区を設けクロホシ病とロキン病を対象として防除効果及び経済効果に関する試験を行つた。

【試験方法】 対象品種に金沢節成を用い、1区 2.5

坪2連として、6月6日より平均4日毎に8回撒布した。又、濃度は当初2回は10匁式、次の2回を12匁式とし以後15匁式で行つた。撒布量は反当8斗~1石として7月8日に撒布を完了した。又マンネブダイセーン隔回区は1回おきに4回撒布とした。

【結果】 クロホシ病防除効果は第1表の通りであるが、ロキン病初発生は銅水銀剤区、ボルドー区に6月20日、マンネブ隔回区に6月30日、ダイセーン区、マンネブダイセーン区は共に7月2日であつて、発病程度も前記順に判然とした差を現わした。

第1表 各区における健全果及びクロホシ病果数(2連5坪分)

	ボルドー区		銅水銀区		マンネブ隔回区		ダイセーン区		マンネブ区		各旬1本当り 平均 価格
	健全果	罹病果	健全果	罹病果	健全果	罹病果	健全果	罹病果	健全果	罹病果	
6 月 中 旬	106	4	84	6	106	4	105	3	103	2	4 円 64
下 旬	181	16	120	24	195	14	177	15	188	5	2. 70
7 月 上 旬	82	14	32	10	89	5	98	6	93	2	2. 78
中 旬	67	18	34	11	61	7	84	4	80	1	2. 80
下 旬	21	1	16	5	35	1	30	0	52	0	1. 91
計	457	53	286	56	486	31	494	28	516	10	
発 病 果 率	11.6%		19.6%		6.4%		5.7%		1.9%		
発 病 比 率	100		106		58		53		19		

備考 銅水銀区の収穫本数の少ないのはロキン病の多発と、銅水銀剤そのものの影響が現われたものと思われる。

第2表 ロ キ ン 病 発 病 程 度

調 査 月 日	ボ ル ド ー 区	銅 水 銀 区	マンネブ隔回区	ダイセーン区	マンネブ区
6 月 20日	+	+	-	-	-
6 月 30日	+	++	-	-	-
7 月 2日	++	+++	++	+	+
7 月 15日	+++	++++	++	++	++
7 月 25日	++++	+++++	+++	+++	++

[各調査日に於ける各区の発病程度比較]

備考 マンネブ隔回区の病斑出現程度はダイセーン区と同程度であつたが葉色は極めて良かった。

なお、クロホシ病の調査とともに、キウリの一般的大病害であるロキン病についても調査を行つたが、これは観察によつてその程度を比較するに止めた。その結果は第2表にとりまとめた通りで、撒布の初期期間中はかなり発病の抑制効果がみられ、マンネブ隔回撒布区、ダイ

セーン区、マンネブ区の3区は6月30日までの調査では発病をみていないが、ボルドー区と銅水銀区ではやはり発病するものが見られる。しかし、7月中下旬においては次第に発病も増加してくるようであつた。

第3表 薬剤費より見た経済的効果

	ボルドー区	銅水銀区	マンネブ隔回区	ダイセーン区	マンネブ区
反当換算粗収益	86,172 円 —	55,709 —	90,205 —	91,802 —	94,042 —
"    薬剤費	820 —	1,250 —	3,000 —	4,500 —	6,000 —
差引金額	85,352 —	54,459 —	87,205 —	87,302 —	88,042 —
			※[+600]		

※節減労力費

【考察】 主な対象としたクロホシ病防除効果は完全とはいへなかつたが、発病比率はボルドー区100に対してマンネブダイセーン区は19で極めて高い防除効果を示した。次いでダイセーン区、マンネブダイセーン隔回区の53、58で両者の効果差は少いが銅水銀区の106に対して相当の発病抑制効果を示している。ロキン病に対しての防除効果を見るとマンネブダイセーン区及び隔回区は他の薬剤区に比較すると極めて高い効果を示し、草勢も良好であつたが収穫本数が比例しなかつたようで、これは栽培技術の点に問題があるためかも知れない。

また、マンネブ隔回区はダイセーン区に比し初期には

病斑数が多いようであつたが、後期には病斑数の差はなくなり、葉色、草勢共に良好でマンネブダイセーン区と共に試験圃の遠方からみても判然と区別できた。このような実態から考えてマンネブダイセーンの持続効果は相当に長く、実用的には隔回区の8日前後の撒布期間をおいても良いように思われた。経済的効果の面よりみると銅水銀水和剤区を除いた他の4区間の差は少かつたが両病害に対する高い防除効果と今後の多発年次を考慮してマンネブダイセーン及びダイセーンを用いる防除法を考えた方が良いと思われる。